



【先週のメッセージより】ダニエル 1章

「神さまへの真心」 野瀬裕志師

ダニエル書は、異教社会に生きる私たち日本人クリスチャンにとり、様々な示唆を与えてくれる書物である。

●名前を変えられ、敵国の王に仕える

ダニエルはベルテシャツアル、ハナヌヤはシャデラク、ミシャエルはメシャク、アザルヤはアベデ・ネゴとそれぞれユダの捕虜であった青年達は改名されたが、彼らは従順にその改名を受け入れ、ネブカデネザル王に仕えるための準備に入った。彼らは敵のただ中であろうと、神が置いた所で神に与えられた責任を果たしていったのである。私達もまた、神に逆らい従わないように見えるこの世にあっても、神が私達をそれぞれ置いてくださったこの場で仕えていくべきなのである。私達はそれぞれこの世で与えられている責任を果たすことで主に仕えていくことができるのである。

●偶像にささげられた肉を食べないという選択

改名に甘んじるダニエル達はしかしながら、偶像にささげられた肉は口にしない、という奴隷としては大胆なリクエストを世話役に出す。彼らはその肉を食べる行為を神の主権への不従順、不忠実さと捉えたのである。神はその決断と共におられ、彼らは4人とも、王の食べ物を食べた者たち誰よりも、顔色もよく元気であった。ここでの重要なポイントは内心の神への忠誠にまで、強制力が及んだ時に彼らは躊躇することなく、神への従順を選び取った、ということであろう。

●日々の生活の中で

現代に生きる私たちも、信仰ゆえに回りの環境と一緒に合わせるべき場面と、内心の自由を侵されそうな強制力が働く場面では神の守りを信じ、否と答える時が生じる。その時に、正しく判断できるよう、日々の主との歩みを確かにしていきたい。■

【今週の英語】 Adrian Rogers “Adrianisms”より

The grace of God will exalt a person without inflating him and will humble a person without debasing him.

神の恵みは人を高ぶらせることなく、引き上げ、また人を卑しめ低めることなく、へりくだらされる。

【今週の暗唱聖句】 I サムエル 3 : 9

「主よ。お話してください。しもべは聞いております。」

この言葉は実はサムエル自身の言葉ではなく、サムエルの訓練に当たっていた祭司エリの言葉である。サムエルにとり、主の語りかけは直接的なことであり、主は超自然な方法で彼と語られたが、勿論今でも主の語りかけを直接聞くクリスチャンは大勢いるが、それでも新約聖書が御霊の靈感により導かれ、完成した今、主は私たちが聖書を読み、そこから主のみこころを知るように求めておられる。

それなら、私たちはこの御言葉をどのように生活に当てはめたらよいか。それは朝、デボーションのために御言葉を開く前に、この言葉を祈るのである。または聖書を開く度に、本気に聞きます、という真剣さを持って主の御前に出たいものである。



【預言者たち / 「成長」のスケジュール】

月日	タイトル	聖書箇所	暗唱聖句
10/04	サムエル	I サムエル 1 ~ 3 章	I サムエル 3 : 9
10/11	神に養われたエリヤ	I 列王記 16:29-17:16	I 列王 17:1
10/18	エリヤの祈り	I 列王記 18 章	第一列王 18:24
10/25	エリヤの恐れ	I 列王 19:1-18	イザヤ 41:10
11/01	後継者エリシャ	I 列王 19:19-21、II 列王 2	エペソ 4 : 1
11/08	ゲストメッセンジャー	GIDEONS	不明
11/15	ヨナ	ヨナ書	II ペテロ 3:9
11/22	神に呼ばれたエレミヤ	エレミヤ 1 章 (37-38)	エレミヤ 1:7

【預言者たちを学ぶことについて / 成長 127号 p27より】

目標：一人一人が神から使命を頂いていることを知る。

イスラエル民族が王制国家を形成して行く過程で、さまざまな預言者たちが登場する。預言者は、神のこぼを預かる者、つまり「神の代言人」である。未来のことを前もって予告するという一般の予言者観とは異なる存在である。この單元ではその預言者たちの活躍を取り上げる。私たちも同様に、神からのメッセージを託された者であることを覚え、学ぼう。

※預言者は行動の預言者と書く預言者とに区別されることが多い。サムエル、エリヤもエリシャも行動が記されているので行動の預言者である。イザヤやエレミヤ、ダニエル等は皆、書物を残している書く預言者である。

